

50 折  
※おかけを要せず

# 財界ふくしま

2021年3月10日発行(毎月10日発行)250巻・第4号  
昭和43年3月4日創刊(種郵便物認可)

4 2021年  
月号

## ■ 田村市長選直前情報②

「3年間で20億円の赤字」が大きな争点に!

## 特集 / 大震災と原発事故から10年

### ■ 特別インタビュー・特別寄稿

- ・立谷秀清相馬市長・伊澤史朗双葉町長
- ・國井常夫西白河地方森林組合長
- ・門馬好春30年中間貯蔵施設地権者会長
- ・作家・柳美里氏

### ■ ざいがい短信

・新校名「須賀川創英館」が定例県議会で決定!?

### ■ 編集長インタビュー

吉田数博  
原発事故による帰還困難区域を抱える町村の協議会長

**緊急インタビュー**  
**原発事故から10年——**  
**中間貯蔵施設が「最終処分場」になる日!!**  
 核のごみの最終処分場の文献調査が始まった北海道寿都町  
 片岡春雄町長が「決断に至った胸の内」を語る!

# いわきを「21世

## 希望が拓ける都市づくりのために

内田 広之 東日本国際大学  
地域振興戦略研究所長



ました。つい先日は、震度4強の地震と大雨がありました。こうした中で地方の課題が先進的に出ており、課題が先鋭化しているのではないかと考えています。基礎自治体では、長期的展望で課題解決の方法を考えていくべきとの声が高まっています。

地方は、若年の都市部への人口流出が深刻です。いわきはじめ、福島県浜通り地方では、約6〜7割の子供たちが高校卒業と同時に、1都3県などの都市部へ出て行ってしまいます。残念な結果ですが、高校生に

### 地方からモデルを作り発信していく

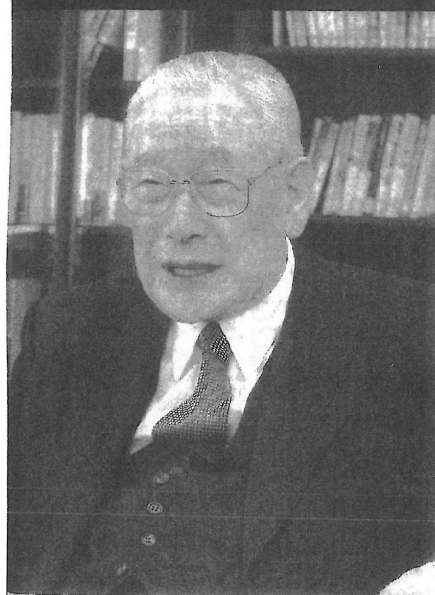
森田 内村鑑三は『代表的日本人』として、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮の5人を挙げています。日蓮と西郷隆盛は全国的

はないかと考えます。また、医者が少なく、心筋梗塞や脳梗塞などの急性疾患の死亡率が高いことも指摘されています。これから魅力ある都市として生き残っていくのか？若い世代は、楽しく暮らしていくのか？人口減少を解決していくこととする場合、1年、2年では解決は難しいので、教育にしっかり取り組むことや、医者が100人くらい足りないところを長年掛けて埋めていくことが必要です。そして、何よりも雇用の確保ですね。再生エネルギー、宇宙開発にもつながる廃炉技術、最先端の医療技術など、民間主導で技術革新が始まっています。全国的に先進的だと思われるこうした取り組みを整備していくことが重要だと考えています。長期的なものも掲げていく必要があると思っています。

# 紀の米沢藩」に！

東日本大震災と福島原発事故から10年を迎えた。(株)昌平堂・東日本国際大学は、原発事故の現場から一番近い大学として、浜通り地区の復興に様々な角度から取り組みながら全国、世界へ発信している。今回は同大学の客員教授・地球文明研究所所長であり、政治評論家としても著名な森田実氏と内田広之同大学地域振興戦略研究所長に、文明論をはじめ地域振興の在り方、教育、雇用、医療など多岐にわたるテーマを大いに語り合ってもらった。

森田 実 東日本国際大学客員教授  
(地球文明研究所所長)



### 「基礎自治体の強化」が今後の課題

森田 本日は、東日本国際大学で地域振興戦略を研究される内田さんとの対談ということで、楽しみです。これからの地域振興の在り方について、いわきの話が中心かと思いますが、お話し出来ればと思います。

森田 戦後日本は長期的な展望を持たずにやってくる事が出来た。ところがいま大きく事態が変わり、長期的な展望を持たないと基礎自治体の市町村も都道府県も、国会も政府もやっていくことが出来ない時代になったのではないかと、長期的展望とは何かという、要するに教育です。教育の成果は100年で、早くても10年から30年。子供の教育から始めるわけですよ。国家100年の計は

教育にあり」という言葉があります。教育を社会運営の一つの基軸に見据えていくことがこれからの時代の課題ではないかと思っています。いま、政府は具体的な成果を上げて国民の信用度を上げていくというところでやっているが、従来の方法でそれが行われれば一定の信頼感が生まれたけれど、いま国民が求めているのは、その場その場の解決以てのもの。つまり社会の未来、人類の未来、子供たちの将来というものを政治に期待しているのだと思います。

もう一点、いま力を入れているのはやはり基礎自治体ですよ。40、50年の運営において企業を強めてきたが、行政機関では県を強めてきたのですよ。基礎自治体が弱くなっている中、基礎自治体の力を強めることがこれからの日本の大きな課題になっていくわけですね。

内田 正にご指摘のことに同感します。それぞれの自治体によって、抱える課題が違ってくると思うのですが、特にいわき市は東日本震災で476名が亡くられています。一昨年は、台風19号で12名が亡くなら

の3人の偉大さは全世界に広がりました。ジョン・F・ケネディが最も尊敬する政治家は上杉鷹山だということほどに広まりました。いまの日本に必要なのは、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹のような地域のリーダーです。中江藤樹は、そういう地域リーダーが必要とされる時代だと思えます。

いわき市は震災、津波、放射線の三重苦だった。今度は疫病が加わりました。いまは四重苦を背負っています。これは広島や長崎、沖縄に匹敵するような、重要な歴史的な苦難を抱えた地方自治体です。米沢藩を再建した上杉鷹山のごとく、あるいは相模と栃木で活動した三宮尊徳のごとく、また近江で活躍した中江藤樹のごとき成果を挙げれば、日本だけでなく全世界のモデルになります。

時に、20万両、現在の通貨で200億円以上の借金があったのを立て直しました。その成功の秘策が「産業と教育」です。産業では、1次産業だけで完結していたのを2次産業、3次産業まで広げました。いまの言葉でいうと6次化産業まで先見の明を持って、例えば、紅花の栽培に止まっていたところを、他の藩から技術者呼んで、紅花から「口紅」を作り、全国に販売しました。また「からむし」という、米沢藩で育てられていた種物があるのですがその「からむし」から着物を作る技術を藩の中で広めました。当時、会津藩にいた「小千谷ちぢみ」の職人を呼んで、「かつむし」から「ちぢみ」を作る技術を学んだのです。また、興譲館という庶民も学べる学校を作りました。当時、武士が学べる学校は全国でも広がっていましたが、平民(農民・職人・商人)が読み書きを学べる学校は、珍しかったのです。興譲館で、平民が読み書きを学べるようにになりました。全国から商人たちが、米沢藩に口紅やちぢみを買いに訪れるようになり、藩民たち

が、収入を得て裕福になったという江戸時代の地方都市の成功モデルは、地方創生が叫ばれるいま、大きな見本だと思っています。

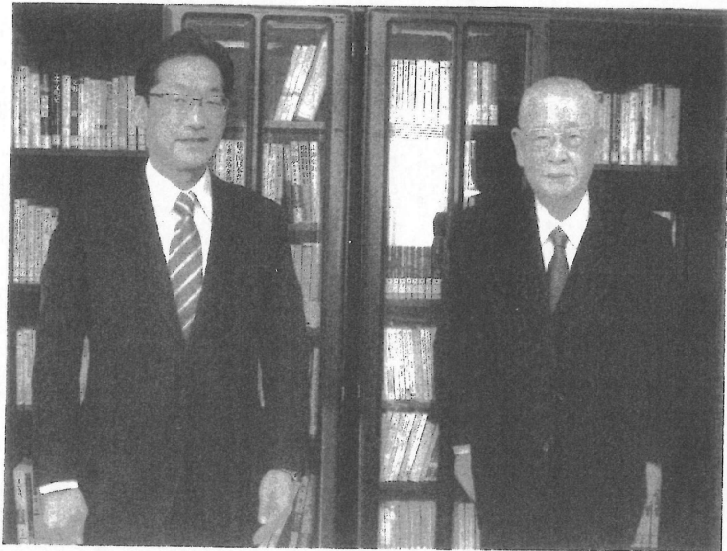
森田 最近、上杉鷹山についてのいい本が再び活発に書かれ、注目されていますよね。米沢という一つの地域で取り組んだことが日本全体、全世界に影響を与えた。いまの米沢は上杉鷹山の輝きを維持していませんが、米沢の価値は上杉鷹山の功績によって永遠化されるわけですよ。苦難を経験したいわき市で、江戸自体の米沢藩のような教育と産業の改革が起こり、新たな地域振興のモデルが生まれていくことを切に期待しています。内田さんがいる東日本国際大学の地域戦略研究所に期待しています。

中学校というような所掌の中を、全国は責任ある立場で見ることが出来ます。しかし、話題になった上杉鷹山ではないですが、感染症や災害の発生、財政状況の厳しさなど、課題が一度に発生しているような厳しい時には、教育や産業、農業、土木、医療など、全体を俯瞰して見て、全体の中で濃淡もつけ、横の連携も促して打っていくやり方が求められます。その成果を、地方からモデルとして発信していくことが意義深いことだと考えております。

森田 私はいま、中央官庁の情報誌の「時評」で、隔月連載ですが「国の実刀、地方に在り」というコラムを書いていきます。その第1回に編集部から、広島県の新しい教育事業を取り上げて欲しいと依頼されました。広島県知事の、英語で授業するよという国際的な学校を作りたい」との提案に共鳴した。若い文部科学省の役人が文科省を辞めて、広島県庁に移って、この事業の中心となっていていきます。頼もしいですね。

内田 寺田拓真さんですね。

森田 そうです。私は広島へ行つて、



寺田拓真さんと湯崎英彦広島県知事に会いました。新しい教育への情熱があふれていて、私は大きな希望を感じました。いまは地味ですが、未来に向かっての大事な事業に、中央官庁の若い国家公務員が中央官庁から地方自治体職員になって一生懸命に取り組んでいる姿を見て、すごい明るさを感じました。コロナが収束したら、また広島へ行つて、もう一度書きたいと思っています。

内田 あの学校(本誌注「広島県立広島教智学園中学校・高等学校」)は全国モデルになると思います

### 今後は「精神の強靱化」も

内田 全国的に災害がひどい状況になっています。背景には、地球温暖化の問題もあります。2050年までに脱炭素という方向性が固から打ち出されています。福島県は、更に先進的で、2040年までに必要電力量を再生エネルギーで賄えるようがあります。再生エネルギーを推進する必要があるわけですが、そういう産業がいわき市から起きていま

す。それをモデル的な取り組みとして、全国に広げていくことが出来ると思っています。

森田 私は、若い時から旅で生きてきました。全国、限なく何十年にも渡り地方を観察してきましたが、福島というのは非常に魅力ある優れたところですよ。あらゆる歴史を持っている地域です。確かな歴史を持ってきました。福島県人は謙虚で「俺のところは一流なんだ」と言わずに控



と書いています。ただ、いまだに、「物」にこだわる考えが根強く、「精神の強靱化」というところまでは行っていません。精神のことをあまり意識してこなかったことが背景にあると思います。文明論の世界に我々は踏み込まないといけないと私は思っています。

内田 3年ほど前、文部科学省にいた時に、国の教育振興基本計画を作る仕事をしました。当時の菅(義偉)現首相(官房長官)のところにも説明に行き、今後5年間の計画を作ったのです。その時に「防災・減災」という観点で、国交省とも交渉して「国土強靱化」という文言も入れた

### 命を守る意識を東北から学ぶ

森田 2月13日の午後11時8分に地震が起こりましたが、東京でも久しぶりの大揺れでしたから福島、宮城は大変だったと思います。その後ニュースを見て10年前の大震災の体験が生かされ、命だけは守ろうという意識が強く、生活を改善し命を守り抜いたということを知りました。これはすなわち、精神の強靱化ではないかと思えます。改めて我々は東北に学ぶべきだと思えました。

森田 2月13日の午後11時8分に地震が起こりましたが、東京でも久しぶりの大揺れでしたから福島、宮城は大変だったと思います。その後ニュースを見て10年前の大震災の体験が生かされ、命だけは守ろうという意識が強く、生活を改善し命を守り抜いたということを知りました。これはすなわち、精神の強靱化という点です。これはすなわち、精神の強靱化ではないかと思えます。改めて我々は東北に学ぶべきだと思えました。

森田 2月13日の午後11時8分に地震が起こりましたが、東京でも久しぶりの大揺れでしたから福島、宮城は大変だったと思います。その後ニュースを見て10年前の大震災の体験が生かされ、命だけは守ろうという意識が強く、生活を改善し命を守り抜いたということを知りました。これはすなわち、精神の強靱化という点です。これはすなわち、精神の強靱化ではないかと思えます。改めて我々は東北に学ぶべきだと思えました。

森田 2月13日の午後11時8分に地震が起こりましたが、東京でも久しぶりの大揺れでしたから福島、宮城は大変だったと思います。その後ニュースを見て10年前の大震災の体験が生かされ、命だけは守ろうという意識が強く、生活を改善し命を守り抜いたということを知りました。これはすなわち、精神の強靱化という点です。これはすなわち、精神の強靱化ではないかと思えます。改めて我々は東北に学ぶべきだと思えました。

森田 2月13日の午後11時8分に地震が起こりましたが、東京でも久しぶりの大揺れでしたから福島、宮城は大変だったと思います。その後ニュースを見て10年前の大震災の体験が生かされ、命だけは守ろうという意識が強く、生活を改善し命を守り抜いたということを知りました。これはすなわち、精神の強靱化という点です。これはすなわち、精神の強靱化ではないかと思えます。改めて我々は東北に学ぶべきだと思えました。



え目生きてきました。地味なイメージですが、非常に豊かな土地です。10年前の震災、津波と原発事故の三重苦を復興して乗り越えられれば、「希望の都市」になるでしょう。その意味で「いわき」という土地は非常に重要な地方都市だと思います。内田 森田先生は、かつて、学校法人・皇学院の緑川浩司理事長との対談で、いわき市のこれまでの産業・歴史・文化などの知見を体系化した「いわき学」の確立を提唱されました。私も心から共鳴しました。いまの若者ほとんど都会に流出してしまっている現状があります。しかし、いわきには誇れる偉人、歴史、

産業、文化、食べ物など、素晴らしいものはいっぱいあるのです。それらを「いわき学」として体系を作り小学生や中学生の時から、学校教育の中で、他教科の一部を削いででも良いのですが身近に触れてもらおう。その中で「自分たちのいわきはすごいんだ」となれば、いわき市に定着してくれたり、いったんは都会で挑戦するためにいわきを離れたとしても、後々、いわきに戻ってきたり、県外にいながらにきて、いわきをバックアップしてくれる方が増えるのではないのでしょうか。森田 いわきは東北の最大の拠点だと思えます。震災で仙台や石巻をはじめ、随分と被害を受けたところがありますが、いわき市は原発事故で含めた大きな重荷を背負った都市です。非常に重要な土地であるが故に、復活した時の影響は、はかりきれないほど大きいと思います。内田 なるほど。逆についているにいたから起き上がった時のパワー、そして、底力が大きいということですね。森田 しかし、かなりの人口規模です。力があります。非常に大事な

地方都市であり基礎自治体です。内田 人口は約33万人で、東北では仙台に次ぐ大都市です。ただ、その大都市も災害に見舞われて厳しい状況になっています。「国土強靱化」について森田先生は、ソフト面の大切さについて、先生の著書である「防災・減災に資する国土強靱化政策が日本を救う」地方再生に挑戦する人々の中で、小田原市の自主防災組織の先進事例を紹介しています。やはり自主防災組織などを作り、集会所ごとややっていくことが今後の取り組みとして大切です。災害の事前の予防のモデル都市」ということも掲げて取り組んでいくべきだと思います。森田 民主党政権の時に「コンクリートから人へ」という政策が提唱されました。私は鳩山由紀夫総理の政策は間違っている。「人もコンクリートも」というようにやるべきだと主張しました。この議論の最中にあの「3・11東日本大震災」が起こり、大きな被害が出てしまいました。森田 京都市立文学部の藤井聡教授が文春新書で「日本列島強靱化論」を書きました。この藤井氏の

著書が、政治の流れを変えるきっかけになりました。私はかつて小泉純一郎元首相の時代に、「公共事業必要論」を書いて「公共事業をどうとん切ったのは日本の未来はない。一番大事なのは雇用であり、みんなが働いてこの世で生きていくことが大事だ」と訴えたのですが、与野党ともに公共事業反対の流れを変えることが出来ず、敗れました。藤井聡教授は「国土強靱化」という新しい言葉を使った。この藤井学説を、いまの衆議院議長の大島理森氏が自民党の幹事長の時に目を付けて、「二階俊博さん、調査会長をやってくれ」ということになりました。しかし、初めは人が集まらなかった。二階会長と林幹雄副会長と福井照事務局長の3人だけでした。それがだんだんと拡がっていきまし。また公明党の「防災・減災ニューディール」と結合し「防災・減災・国土強靱化」という法律をつくり、予算も組むことが出来るようになりました。私は、いまや強靱化という言葉はハードに限らず人類文明の強靱化、人間精神の持ち方まで拡げられるべき



に子思が儒教の歴史において重要な存在だったか。喜を見て改めて思いました。  
その子思が編纂したと言われるのが「中庸」です。「中庸」は、実は孔子哲学の中心を成すものです。この「中庸」については、アリストテレスも「中庸」を重視しています。釈迦も「中道」を強調しています。両極端は良くない、真ん中が良いという点で共通しています。

なっています。一つは「中」が大事であり、「時に中す」一あらゆる場面で真ん中が良い。実は「中庸」の一番初めの言葉は、人間がいろいろな感情を持つ前の状態がすなわち「中」である。つまり、いまの我々の言葉でいうと「無の心境」になつていない状態こそが「中」なんだと「中庸」の冒頭に書いてあります。これはかなり本質を突いています。

勝海舟の談話筆記「水川清西」の中で、「政治の要諦は正心誠意の一言に尽きる」という有名な言葉があります。いま我々が使っているのは誠心誠意です。これは「誠の心と誠の意思」です。勝海舟は「正しい心の誠の意思」と書いていますが、基になったのは「中庸」です。  
この「中」と「誠」とセットになっているのが儒教の精神です。これは礼儀を書いた「礼記」の中にずっと含まれていたのですが、朱熹が重要

なものとして一冊の本にしたことで、孔子の孫の子思が大きな存在になったのです。「中」と「誠」こそが儒教の本当の精神だと「中庸」は主張しています。いま、そうした精神を持つリーダーが求められています。

内田 前職は国家公務員として、国の機関におりましたが、行政においてと政治的な圧力でこうした左がパフォーマンズが上がるとか、特定の団体や企業から、特別に予算で配慮して欲しいという要望が出てくることがあります。ただ、私なりの理解では「中庸」というのは国民全体の利益から考えて、何が論理的に一番正しいのかを、理屈立てて考えて出した結論が「中庸」だとずっと思っていました。経験上、そのような過程を経て決断したことは、一時的には、利害関係のある方からお叱りを受けることがあったとしても、長い目でみて理想的な政策になっていくことが多かったんです。私なりの「中庸」についての解釈は、間違っていないでしょうか。

森田 その通りだと思います。重要課題を決める時に心を無にする。だから、いろいろな怒りの感情とか、

あの人に意地悪をされたとか、そういう雑念を全部去った状態が「中」だ、そういうことを意識して実行出来れば、それは上杉鷹山の境地です。内田 なるほど、そうですが、私なりの解釈が誤りではなくて良かったんです。

森田 剣道をやっております。常に無心を目指して稽古の前に黙想して稽古に臨むわけですね。至誠通天」という言葉がありますが、心を無にして「誠」を追求する。そういう気持ちでいると天に通ずるものがあるのだという気持ちを持ち続けたいと思います。

森田 剣道は戦後、占領軍によって一時禁止されました。私は小学6年生の時、まだ戦時中でしたが黒胴でした。戦後、剣道が禁止になったので一時、柔道をやりました。大学1年生の時柔道部に所属していましたが、剣道は柔道に少し違いがありました。剣道は最初「構えた時に無心」になります。精神が「無」「純粋」になります。

内田 戦後、占領軍が戦前の反省に立って一時禁止にしたということですか。

森田 そうだと思います。論語も孟子も禁止されました。論語は公的教育では禁止されたのですが、日本人の心の口に生きていたので、影響の低下はみられません。しかし、孟子の影響は低下しました。占領軍によって禁止されたものはいろいろ

### 苦勞を希望に変える役割を

森田 文明論も大きな転機です。コロナは世界中の人間の考え方に影響を与えています。

内田 文明論という意味でもそうですか。  
森田 大きな転機です。「コロナ禍」は一言でいえば、人間が自然に対する謙虚さを失って、傲慢になつたら人類はお終いになるんだ、ということとを教えているのです。

内田 いままではグローバルシステムという考え方に代表される世界スタンダードがあり、日本も、それに打ち勝っていくんだという経済至上主義の部分があったと思うのです。しかし、これだけコロナ禍で行き来が出来なくなると、やはり一つのまとまったエリアの中で経済も政治

いろいろありましたが、禁止しても禁止しきれなかったものの一つが論語でした。東洋医療もそうです。制度的には禁止されたが草の根で生きています。剣道も復活しました。剣道は最高の教育のツールだと思います。

も行政も完結していく仕組みを作っていないかなくては生き残ってはいけません。従いまして、地域振興という意味

では、先ほどの上杉鷹山の「口紅」とか「小地谷ちぢみ」のような地域産品、地場産物の出番になります。アジア圏に安い労働市場を求めたり、安い果物や野菜などを外国から輸入したりするというのではなく、その地方の強みは何なのかをきちんと発見しながら経済圏もその中できちんと回し回していくことが大切です。コロナによって社会全体が、そのように変化してきましたよね。森田 農業も日本の国民が自分の土地で生産された農産物を食べて生きていく。これが原点だと思うのです。

これから人口が少なくなれば農業生産力が人口減少の中で余りますから、そうした農産物は輸出していく。私は日本の農産物は非常に優れていると思うので、価値があると思っています。世界的に大きな価値を持つています。ただ、日本国民が日本の農民の生産物によって生命をつないでいくということをもっと広げていきたいと思っています。

内田 東北地方でも農業はほとんど衰退化しています。畜産も林業もですが、そこをどうやって息を吹き返すかが要だと思います。

内田 特に関西は、NPOを立ち上げて、地域のため、人のためになることをしたいという方が増えています。いろいろなところでNPOを作って地域おこしを行っておられます。例えば、そういった方々に、山村に入って頂き、高齢化して担い手がいないと悩んでいた方々の仕事をお願いして協約化、農業を企業経営に近い形で行って復活させ、そこでしか採れない農産物を、SNSなどを活用して発信していくようなことも考えられるかなと思っています。

私が前職で働いていた福島大学では、食農学類という福島県産物の可能性を磨いて発信していく学部が一昨年出来た。例えば、福島県産の発酵醸造の食品は、日本全国で見ても技術も伝統も素晴らしいものがあります。それらを総合的に研究して発信していく研究所も設置され、今後、発酵醸造分野を学びたい人が集まってきています。また、再生エネルギーでも、企業誘致や研究所設置も進んでいます。

内田 国も復興庁が、震災後10年が経過して残りの復興創生期間5年間の目玉として国の研究機関として国際教育研究拠点を立ち上げます。そこにスマート農業や、再生エネルギー、廃炉の研究を造るのですが、例えばそういうものをいくつかの市町村で結束しながら、未来を見せたいというようことが出来るのかな、という先生の話を伺いながら感じています。

森田 いまは本時代に時代の大きな変わり目です。私は「いわきに行けば、自分の人生に希望が拓ける」というものが出来れば、全国からも世界からもいわきに集まってくると思っています。

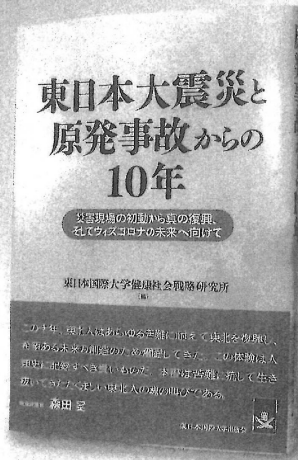


# 東日本大震災と 原発事故からの 10年

災害現場の初動から真の復興、そしてウイズコロナの未来に向けて

本書は苦難に抗して  
生き抜いてきた  
たくましい東北人の  
魂の叫びである。

政治評論家 森田実



鎮魂

3.11東日本大震災から10年

喜多郎コンサート

3月11日(木) 14:40~16:00(終了予定) YouTube 生配信

東日本国際大学



東日本国際大学

■経済経営学部 ■健康福祉学部

健康社会戦略研究所

〒970-8023 福島県いわき市平籾田字寿金沢37 TEL.0246-35-0001(代)

雑誌 80863-4



4910808630414  
00662

特別対談 森田実之 東日本国際大学地域振興戦略研究所所長  
内田広之 東日本国際大学地域振興戦略研究所所長

の「サッチャー・メジャー政権」は非常に強力で、再び労働党の時代は来ないのではないかと思われていた時に、労働党の若いブレアが登場した。ブレアは中道政治を提唱するとともに、教育重視を打ち出して、エジューケーション、エジューケーション、エジューケーションと繰り返して、叫び続けた。エジューケーション、エジューケーション」と演説して、全国を回ったのです。それで世論は変わり、ブレア労働党政権が出来たのです。

しかし、ブレアはその後ブッシュのイラク攻撃に同調し、偽情報に騙されたとして、いまは信用がなくなり失脚してしまいましたが、労働党がもう見込みがないと言われていた時期にブレアは「エジューケーション」を言い続けて強大な保守党政権を倒した。「エジューケーション」が当時のイギリス人の心に響いたためです。これから日本でも、いわき市でも同じことが起こると思います。

時、特に課題だった高校教育の底上げを図りました。着任時は、東北で最下位だったような状況でしたが、財源を投入し、人事でも思い切った若手登用をたり、中央から人を招聘したりして、ぐんぐん成績を引き上げることに成功しました。いま文科省がやっている学庁調査はドリル的な問題を解けるというものではなく、新聞を読んで、「この記事にはどのような問題が解けるか」とか、「この問題が何を考えればよいのか」とか、たくさんある情報から、ポイントを要約することを測る調査です。その調査で秋田は点数が高いですが、日々の学校の授業で、そうした思考を問う実践がなされていることが背景にあります。更に、秋田は3世帯家庭も多いのですが、学校だけではなく、家庭でも、おじいちゃん、おばあちゃん、孫のヨチヨチの生活に深く接しているわけです。

森田先生が書かれた前述の『名言123選』の中にも「過ちで改めざる、是れを過ちと謂ふ」という孔子の言葉があります。私は、いつもその言葉を教育に当てるために考えています。自分自身の子育てを振り返ってみてもそのようなのですが、親とすれば、ややもすると「うちの子供は、将来サッカー選手かな」とか「水泳のプロになれればいいな」などと思ってしまうがちです。しかし、大事なものは目に見えない根っこや幹の部分だと思わなくてはなりません。つまり、スポーツの立派な技術の根っこには、基礎的な体力があるわけです。そして、そのたくましい身体へのベースは、た

## 今年再び論語を学ぶ1年に

森田 NHK大河ドラマで今年、渋沢栄一が始まりました。いま渋沢栄一の『論語と算盤』が、現代訳まで含めて多くの人に読まれています。良いことです。論語をいま一度日本人はこの1年間勉強することにしたいと思います。

内田 いいですね。大河ドラマでも楽しみにしています。森田 これは日本の将来にとって、非常にプラスになると思います。中国宋の時代、朱子学を起した朱熹が儒教の中興の祖と言われた人ですが、彼は儒教の基本文献として『四書五経』を挙げました。四書とい

くさんの経験で成り立っています。たくさん失敗して転んで擦り傷を負ったり、火傷したりしながら、自分の体を修復していく中で強さを形成していく。やはり、教育の根っこというのは土の中に眠っている部分や幹であり、そこは「過ちで改めにくい」ことを通じて、繰り返して学んでいく部分だと思っています。それが教育の根幹だと考えています。

うのは「論語」「孟子」「大学」「中庸」です。どうしてこれを選んだのかという釈迦に説法ですが、孔子から彼の晩年の弟子である曹子、曹子の弟子の孔子の孫・子思、その弟子の孟子へと、孔子の思想が孟子まで伝達されたということ。「論語」「大学」「中庸」「孟子」が四書になりました。私は中国山東省曲阜市の孔子の墓に2度参拝したことがあります。孔子の墓の隣に息子の孔鯉の墓があり、更にその隣に孫の子思の墓があるのですが、孫の墓が孔鯉の墓より大きく孔子の墓に匹敵するほどです。親よりもはるかに大きいのです。いか